

# 福井県今庄町における高齢者介護福祉施設

前 田 博 司\*・前 田 剛 司\*\*

## Care Welfare Establishments for the Aged in Imajo Town, Fukui Pref.

Hiroshi Maeda and Takeshi Maeda

This paper analyzes present state and problems of care welfare establishments for the aged in Imajo town to give an example of the heavy snow area by means of the questionnaire investigation to inhabitants. As a result, followings are clarified.

- 1) The town is already super-aged society, and there are only old people's many households in it.
- 2) There are many people who are in trouble with the snow removal of the roofs and the roads.
- 3) The use rate of the establishments is comparatively low in the town.
- 4) It is a problem to improve the use rate of the establishments with enriching services.

### 1. はじめに

2000 年 4 月より介護保険法が施行され、介護福祉制度が大きく変化したことに伴って、地域における介護福祉施設やサービスの充実が必要となったが、多雪地の多くは、大都市への人口流出による過疎化が進み、高齢化傾向が顕著であると同時に施設の整備も財政的に困難であることが多いなど、多くの問題を抱えている。そこで、筆者らは福井県和泉村においてアンケート調査を行い、多雪地における高齢者介護福祉の現状と問題点について検討し、その結果を報告した<sup>1)</sup>。

本報では、それに引き続き、福井県今庄町において同様の調査を行った結果を報告する。

### 2. 調査の概要

#### (1) 今庄町の現況

今庄町は、福井県のほぼ中央にあつて岐阜県・滋賀県に境を接し、面積 241.6km<sup>2</sup>・人口

主産業は農林業で、特に蕎麦は町の名産品として有名である。

人口構成は、図 1 の通りであり、65 歳以上の高齢者数は 1538 人（高齢化率 30.4%）、そのうち 75 歳以上の後期高齢者数は 754 人（後期高齢化率 14.9%）である。

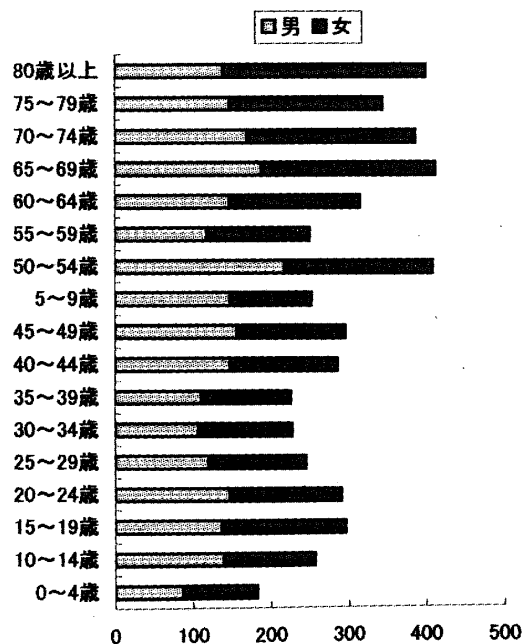


図 1 今庄町の人口構成

\* 建設工学 科建築学専攻 \*\* 歯科医師（元・応用理化学専攻大学院生）

5060人(2002年3月31日現在)、わが国でも有数の豪雪地で、町の90%が山岳地帯である。

## (2) 今庄町における介護福祉施設

今庄町には、老人保健施設・福祉センター・診療所があるだけで、特別養護老人ホーム等はなく、近隣市町村の町外施設で対応している。因みに、今庄町から町外の特別養護老人ホームへの入居待機者は10名程度である。

福祉センターは、デイサービスを含み、過疎地域での介護支援機能や地域住民との交流機能を提供する高齢者生活福祉センターと同等の機能を果たしている。

## (3) アンケート調査

住民に対するアンケート調査は、主な集落のうち今庄および湯尾において、調査への協力の承認が得られた世帯に用紙を配布し、118世帯から回収した。調査内容は、家族構成・要介護認定者数・サービス利用の有無・介護福祉施設への要望・高齢者の生活・介護福祉に関する意見等である。

# 3. アンケート調査の結果

## (1) 家族構成および要介護認定者数

65歳以上の高齢者がいる世帯は84%で、そのうち高齢者のみの世帯は25%であった(図2)。また、家族に要介護認定者がいる世帯は13%あり、要介護度は、1:2人、2:4人、3:1人、4:0、5:4人、要支援:1人であった(他は無回答)。

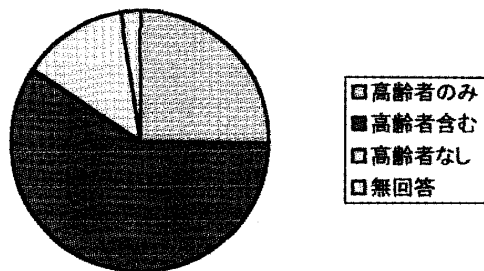


図2 家族構成

## (2) 施設・サービスの利用状況と希望

65歳以上の高齢者に、どのような施設を利用したことがあるか(複数回答)を聞いた結果は、図3のようであり、「診療所」が最も多く、「高齢者生活福祉センター」はきわめて少なかった。今庄町ではこれを単に「福祉センター」と呼んでいるため、別の施設と考えて、「その他」と答えたことも考えられる。

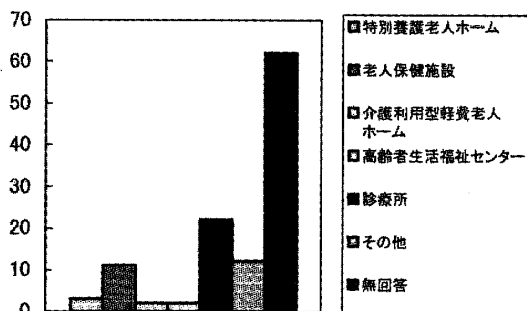


図3 施設の利用経験

また、これらの施設を利用したことがない人(「無回答」)が多く、どのようなサービスを利用したことがあるかを聞いた結果(図4)も同様であり、今庄町では介護・福祉施設の利用率が低いことがうかがえる。

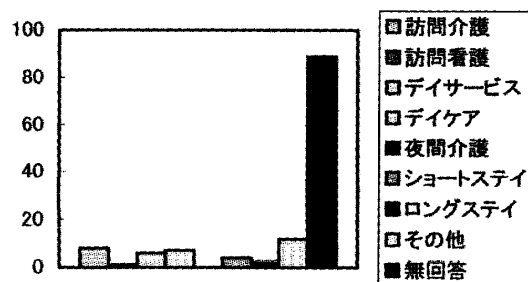


図4 サービスの利用経験

一方、65歳以上に限定せず、全員に今後どのようなサービスを利用したいかを聞いた結果では、「訪問介護」や「デイサービス」をは

じめとして、かなり希望が多い（図5）。

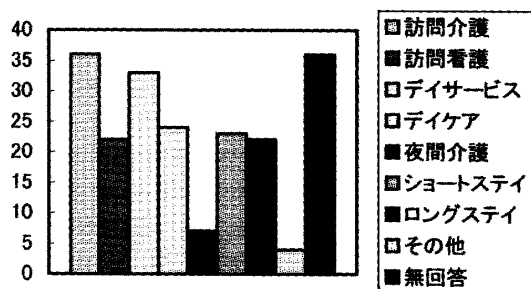
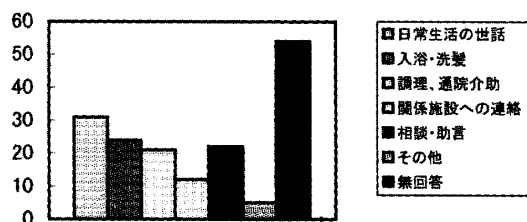


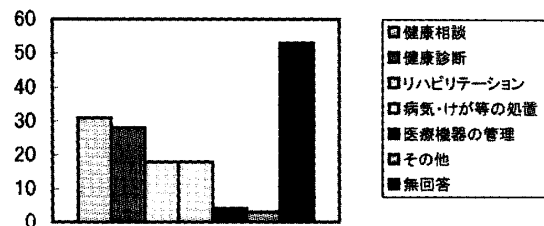
図5 サービスの利用希望

サービス内容の希望は、訪問介護で「日常生活の世話」、訪問看護で「健康相談」、日帰り介護で「食事・入浴」がそれぞれ第1位であった。

#### 訪問介護



#### 訪問看護



#### 日帰り介護・日帰りリハビリテーション

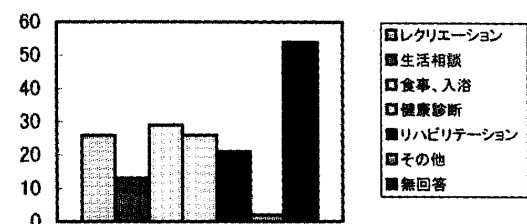


図6 サービス内容の希望

### (3) 介護福祉に関する不安

介護福祉に関して不安を感じていること（複数回答）は、図7の通りである。「積雪時」に不安を感じている人が最も多く、施設の利用や訪問介護・訪問看護のサービスに不安をもっているようである。「入院施設の不足」が比較的小さいのは、診療所に19床の入院設備があるからであろう。また、「緊急時の対応」ただし、診療所が往診を行っていることは78%が知っており、介護福祉と医療機関の連携にも満足している人は多い。

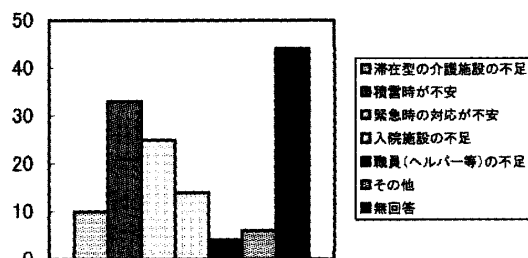


図7 介護福祉に関する不安

しかし、高齢者が積雪期に困ること・心配なことは、図8のように、「雪下ろしや雪かき」が圧倒的に多く、次が「歩行路の除雪」であって、「訪問介護の回数減少」など介護福祉に関するものは少なかった。また、出かけるときの交通の便について不満を持っている人は10%しかなかった（図9）。

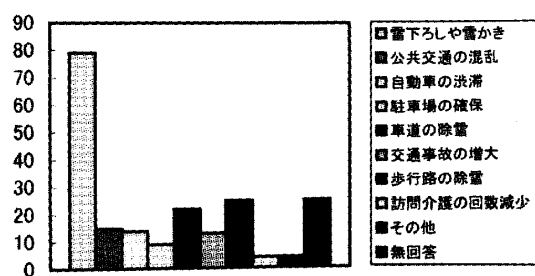


図8 積雪期に困ること・心配なこと

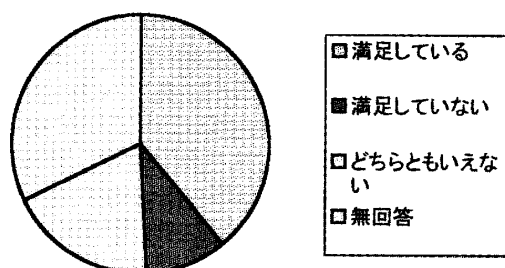


図9 出かけるときの交通の便について

#### (4) 介護福祉施設の場所・他施設との併設

介護福祉施設がどのような場所にあればよいかの質問に対しては、図10のように、「静かな自然の中」の希望が42%と最も多かったが、「一般の住宅がある場所」も14%、「人が集まる賑やかな場所」も12%の希望があった。

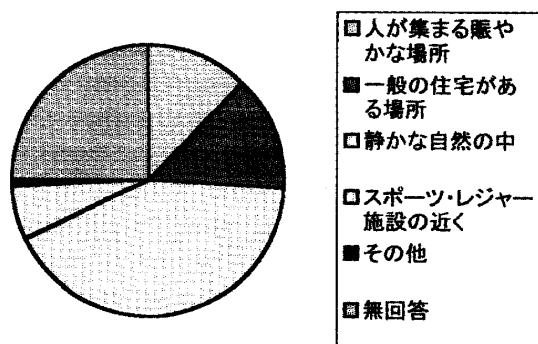


図10 施設の場所の希望

介護福祉施設に他の施設が併設されることには53%が賛成であり、反対は13%に過ぎない。

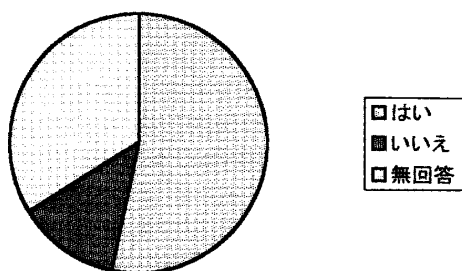


図11 他施設との併設

かった(図11)。併設されるとよい施設(複数回答)としては、「診療所」が第1位で、「集会所・公民館」が第2位、「保育園・幼稚園」が第3位であった(図12)。

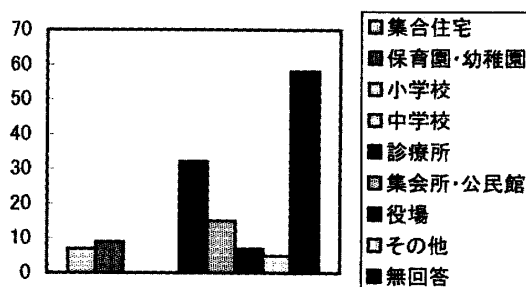


図12 併設を希望する施設

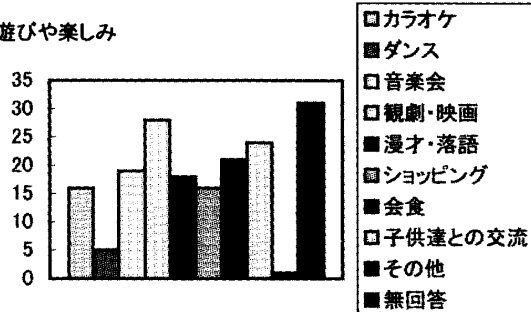
#### (5) 老後の生活

老後の生きがいがいづくりとして、今後参加したいイベントとしては、趣味や習いごとでは「園芸」や「子供たちとの交流」、遊びや楽しみでは「観劇・映画鑑賞」、運動や野外活動では「団体旅行」や「ハイキング」、ボランティアでは「草木の手入れ」が人気があり、実用講座では「健康教室」への参加に希望が多かった(図13)。

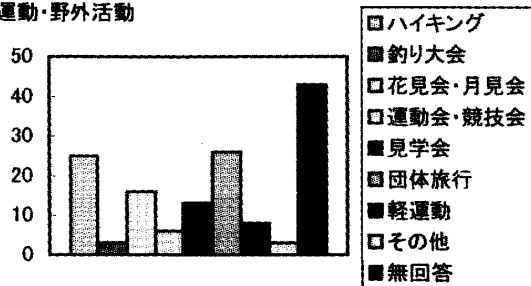
これから先(老後)、施設での生活を望むか、在宅での生活を望むかの質問に対して、「ぜひ施設にしたい」と「条件が合えば施設がよい」を合わせても16%であるのに対し、「ぜひ在宅にしたい」と「なるべく在宅がよい」は合わせて39%で、在宅介護への希望が多い(図14)。また、今庄町から離れたいと考えているのはわずか2%であった。これらのことから、多雪地であり、過疎化が進んでいる場所ではあるが、将来もこの土地に住み、在宅で介護を受けたいという希望が強いことがうかがえる。しかし、家のバリアフリー対策は必ずしも進んでいるとはいえず、図15のように、バリアフリー化が最も進んでいる「風呂」でも25軒(全体の

21%)で、バリアフリー化の基本ともいえる「段差の解消」は18軒(全体の15%)に過ぎなかった。

遊びや楽しみ



運動・野外活動



ボランティア



図 13 参加したいイベント

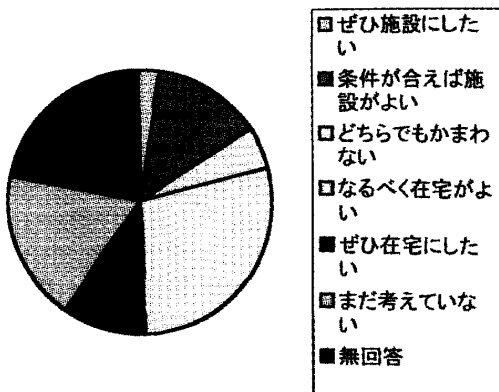


図 14 施設介護と在宅介護

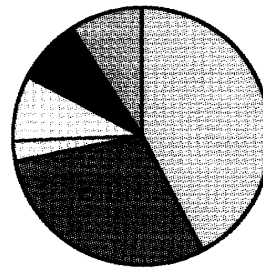


図 15 今庄町での居住

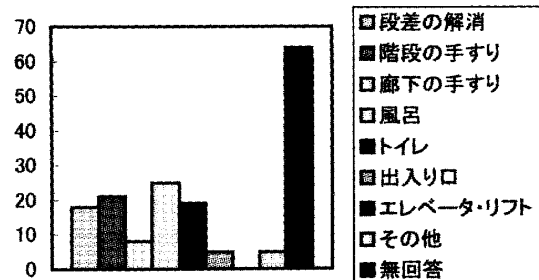


図 15 家でバリアフリー対策をしている場所

#### 4. むすび

今庄町はすでに超高齢社会に突入しており、介護福祉施設の充実が必要であることはいうまでもない。そこで、町では福祉センターの新築や診療所に老人保健施設の併設を行った。しかし、特別養護老人ホーム等は近隣市町にある共用施設で対応している。

町民の施設利用率は、このアンケート調査の結果からは、かなり低いと見受けられる。また、調査対象とした世帯の84%に高齢者がいるにもかかわらず、アンケートの質問項目に「無回答」が多く、介護福祉に対する住民の意識もあまり高くないように思われる。それだけ、この町には健康な高齢者が多いともいえるが、平均寿命の伸張に伴い、今後加齢による障害をもつ住民が多くなることが予想される。したがって、適確な介護福祉サービスが可能になるように、

サービスを提供する側もそれを受ける側も努力が必要である。

サービスの提供者には、地域に密着した施設やサービスの充実を図ることが求められる。住民は積雪時および緊急時の対応に不安を感じており、豪雪地であることを考慮すれば、施設の建設や管理、冬季におけるサービスの提供方法も、寡雪地とは異なるものがあって然るべきである。それと同時に、住民の啓蒙にも努める必要があると考えられる。

一方、サービスを受ける住民は、意識として

は在宅介護を志向しているが、それに向けた努力は十分であるとはいえない。快適な老後生活のためには、介護福祉サービスの適正な利用も重要であるし、住宅のバリアフリー対策も不可欠である。また、心の問題として、生きがい作りにも努める必要がある。

#### 謝辞

本研究を遂行するに当たり、ご協力いただいた今庄町役場および住民の皆様に厚く感謝いたします。

#### 《参考文献》

- <sup>1)</sup> 前田博司・前田剛司：福井県和泉村における高齢者介護福祉施設，福井工業大学研究紀要，第32号，pp. 193-198，2002. 3
- <sup>2)</sup> 福崎恒：高度先進医療から地域ケアの実践まで，金原出版，1999. 3
- <sup>3)</sup> 平松一夫：介護保険と福祉施設サービスの戦略，医歯薬出版，1998. 11

(平成15年12月5日受理)